

科目責任者 伊東 明彦 (薬学教育研究センター/治療評価学)

## ■ 教育目的

健康維持に必要な栄養を科学的に理解するために、栄養素に関する基礎知識を修得する。さらに、後半では輸液療法を中心とした各種病態時の栄養管理のための基礎および臨床応用について学ぶ。

## ■ 学習到達目標

チーム医療で期待されている薬剤師業務の一つである輸液剤の調製に関する知識を習得する。さらに輸液療法を必要とする病態に関する基本的な知識を身につけ、各病態で使用される輸液剤の種類と特徴を習得する。

## ■ 準備学習 (予習・復習)

予習：配布された講義プリントに目を通し、興味のある部分について詳細に調べておくこと。

復習：演習問題あるいは課題レポートをまとめておくこと。

## ■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	基礎栄養	糖質・タンパク質・脂質の消化・吸収・代謝と栄養	D1(3)-①-1,2,3
2	//	//	D1(3)-①-1,2,3
3	//	ビタミンおよびミネラルの種類と生理機能	D1(3)-①-1,4
4	//	//	D1(3)-①-1,4
5	//	エネルギー代謝と日本人の食事摂取基準	D1(3)-①-5,6
6	臨床栄養Ⅰ (輸液療法の基礎)	輸液療法における水と電解質の基礎知識	D1(3)-①-7,8
7	//	輸液療法における酸塩基平衡の基礎知識	D1(3)-①-7,8
8	//	輸液療法における各種栄養素に関する基礎知識	D1(3)-①-7,8
9	//	経静脈栄養 (末梢静脈栄養と高カロリー輸液)	D1(3)-①-7,8 F(3)-③-4,5
10	//	経管栄養と経腸栄養	D1(3)-①-7,8 F(3)-③-4,5
11	臨床栄養Ⅱ (輸液療法の臨床応用)	輸液療法における手技、輸液剤の種類と使い方	F(3)-③-4,5
12	//	//	F(3)-③-4,5
13	//	各種病態に対する輸液療法 (1)	F(3)-③-6
14	//	各種病態に対する輸液療法 (2)	F(3)-③-6
15	//	各種病態に対する輸液療法 (3) 注射剤の配合変化	F(3)-③-6 F(2)-③-5

## ■ 授業分担者

服部 研之 (No.1～5)、下川 健一 (No.6～10)、伊東 明彦 (No.11～15)

## ■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

期末試験 (90%) および出席状況・授業態度 (10%) で総合評価する。

## ■ 教科書

『わかりやすい輸液剤』 郡 修徳・栄田 敏之 編 (廣川書店)

## ■ 参考書

『輸液療法の進め方ノート 第2版』 杉田 学 編 (羊土社)

『基礎栄養学 改訂第5版』 奥 恒行・柴田克己 編 (南江堂)